

科目名	子どもの保健 I ②					
科目名(英)						
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	川端 いづみ
実施年度	2020年度		実施時期	前期	担当者実務経験	養護教諭
対象学科・学年	こども未来学科3年					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの保健の意義、子どもを取り巻く最近の問題点及び今後の課題について学ぶ。 子どもに起こりやすい疾病や事故について、その予防と対策についても学ぶ。 テキストの内容を理解した上で、自分の考えを述べることができるようになる。 					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標
	○	○	○	○		子どもの保健の意義について知る。
	○	○	○	○		子どもの心身の正常な発育、及び発達段階各期の特徴を理解する。
	○	○	○	○		子どもの疾病、事故、その予防と対策について理解する。
	○	○	○	○		保育者として、応急処置全般を理解する。
テキスト・教材参考図書	「よくわかる子どもの保健 第3版」					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	子どもの疾病の特徴				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。
	2	呼吸器疾患				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。
	3	重要な感染症・予防接種				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。
	4	消化器疾患				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。
	5	循環器疾患				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。
	6	泌尿器・生殖器疾患				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。
	7	中枢神経系疾患				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。
	8	代謝・内分泌系疾患				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。
	9	血液、腫瘍性疾患				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。
	10	整形外科疾患				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。
	11	保育現場における衛生管理				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。
	12	子どもの事故防止対策と安全教育				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。
	13	現場で役立つ救急時の対応-事故				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。
	14	現場で役立つ救急時の対応-けが				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。
	15	現場で役立つ救急時の対応-アレルギー疾患				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。
評価方法	毎回小テストを実施します。定期試験と合わせての割合で評価します。					
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲
	定期試験		◎	◎	◎	80%
	小テスト		○	○	○	10%
	発表・宿題		○	○	○	10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。					

科目名	日本国憲法							
科目名(英)	Constitutional Law							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	大谷美咲		
実施年度	2020		実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	こども未来学科3年							
授業概要	<p>憲法は国の基本法といわれています。憲法は何のためにあるのか、憲法は何を守るためにあるのかについて理解し、そこを出発点にして基本的人権、三権分立、国民主権等の憲法の基本原理の理解を深めていきたい。</p> <p>憲法の諸問題は、私達の生活に直接関係ないようと思えるかもしれませんのが、実は身近なものであることを例を用いつつ学んでいきたい。」</p>							
授業形式	講義: <input checked="" type="radio"/>	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法: <input checked="" type="radio"/> その他: <input type="radio"/>			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標		
	<input checked="" type="radio"/>					憲法の人権規定についてどのような権利があり、その性質の違いを説明できるようになる。		
		<input checked="" type="radio"/>				憲法上問題になっている事例について、自分の意見をいえるようになる。		
	<input checked="" type="radio"/>					権力分立について、その具体的システムとともに説明できるようになる。		
			<input checked="" type="radio"/>			ミニッツペーパーの提出などで、毎回の授業内容を確認できるようになる。		
テキスト・教材参考図書	日本国憲法							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	憲法の全体構造				テキスト第一章に目を通すこと		
	2	象徴天皇制と国民主権				テキスト第二章に目を通すこと		
	3	幸福追求権				テキスト第四章Ⅰに目を通すこと		
	4	平等権				テキスト第四章Ⅱに目を通すこと		
	5	家庭生活における平等				テキスト第四章全体に目を通すこと		
	6	精神的自由権				テキスト第四章 信教の自由、思想良心の自由、表現の自由などを重点的に理解しておいてください。		
	7	人身の自由				テキスト第四章Ⅶに目を通すこと		
	8	確認テスト、人身の自由				重要テーマの復習をしておくこと		
	9	国会				テキスト第五章Ⅰ,Ⅱに目を通すこと		
	10	内閣・裁判所				テキスト第五章Ⅲ,Ⅳに目を通すこと		
	11	社会権				テキスト第四章Ⅷ前半に目を通すこと		
	12	勤労の権利、労働基本法				テキスト第四章Ⅷ後半に目を通すこと		
	13	裁判所見学及び模擬裁判				事前学習		
	14	裁判所見学及び模擬裁判				同上		
	15	まとめのテストと解説				全体の復習及びテーマ学習をしておくこと。		
評価方法	<p>(1)定期試験(筆記)を実施する (2)発表・授業参加度</p> <p>成績評価基準はS(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする</p>							
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>				80%
	発表・授業参加度					<input checked="" type="radio"/>		20%
履修上の注意								

科目名	発達心理学							
科目名(英)	developmental psychology							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	江崎 百美子		
実施年度	2020年度		実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	こども未来学科 3年							
授業概要	この講義では、人間の発達について理解を深めることを目指します。乳幼児期、児童期、青年期までの各段階の特徴を、知覚と運動、知能と言語、感情、遊びと社会性などの観点から説明します。さらに成人期、高齢期の発達特徴と課題について「生きがい」と関連して説明します。							
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標		
	○					発達には段階があり、各段階にはそれぞれ発達上の課題があることを理解する。		
	○	○				発達の多様性について理解することができる。		
	○	○	○			発達上の課題を効果的に支援する方法について説明することができる。		
テキスト・教材 参考図書	・テキスト 発達心理学～乳児期から老年期まで～ 近畿大学九州短期大学 ・参考資料とワークプリントを適宜配布する							
授業計画	授業項目・内容					授業外学修指示		
	1 発達心理学とは、発達のとらえ方 遺伝と環境					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2 現代の発達理論					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3 運動発達、身辺自立					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4 言語の発達、コミュニケーション					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5 感情の発達、遊び					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6 社会性の発達 対人関係、親子関係、愛着					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7 自己概念(仲間との関係)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8 自己概念(セルフイメージ)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9 青年期の特徴					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10 成人期、高齢期の特徴					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11 成人の生きがい					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12 心理検査について(発達検査と認知症検査)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13 デスエデュケーション					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14 心理的アプローチと支援					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15 自己分析、全体の振り返り					授業内容に係る確認テストを実施するので、ノートや配布プリントなどを再確認しておくこと		
評価方法	(1)授業の中でワークプリント作成を実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。以上を次の観点・割合で評価する。成績評価基準はS(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲		
	定期試験		◎	○		70%		
	ワークプリント作成		◎	◎	◎	20%		
	発表		○	◎	◎	10%		
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。							

科目名	乳児保育							
科目名(英)	infant nursery							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	安部 知世			
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	発達障害の病院で医療保育専門士と保育園で保育士として勤務			
対象学科・学年	こども未来学科 3年							
授業概要	近年、子どもの発達障がいやグレーの子ども達が増えている。子どもの乳児期の発達の具体的な視点、観察ポイント、具体的な支援方法を演習を通して習得する。また、近年の読解力低下にも繋がっている乳幼児期の眼と脳と心の発達や愛着についても理解し、現代に必要な乳児保育技能を自身の気づきを通しての習得を目指す。							
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標		
	○	○				乳幼児の発達を深く理解し、愛着障害や発達障害にも応用することができる。		
		○	○			乳幼児を観察し、自分で発達に気づき、発達を促す行動ができる。		
	○	○				近年、視力が下がる幼児が増えているため、子どもの視力を維持できる遊びを提供できる。		
	○					乳児の発達を観察し、発達を促す遊びを構成し、安全に実践することができる。		
	○					保護者との信頼関係を築き、気持ちを理解し、悩みの共有や寄り添える対応ができる。		
テキスト・教材 参考図書	同文書院 初めて学ぶ乳児保育 参考図書:クリエイツかもがわ 乳幼児期の感覚統合遊び							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示			
	1	授業ガイダンス 乳児保育の歴史的変遷			パソコンの準備をすること			
	2	乳幼児の発達 愛着形成と愛着障害			パソコンの準備をすること			
	3	乳児のこころと身体と脳の発達			パソコンの準備をすること			
	4	乳児の目と脳の発達			パソコンの準備をすること			
	5	ワーク 感覚遊び 計画立案 発表						
	6	ワーク 感覚と遊び 演習 発表			自分で使いたい教材を準備すること			
	7	発達障がい児への理解と関わり			パソコンの準備をすること			
	8	保護者支援 信頼関係づくり コンプリメントシャワー			パソコンの準備をすること グループ毎に席を合わせて準備すること			
	9							
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
	15							
評価方法	(1)授業内で小テストを6回実施する。(2)乳児の発達に関するレポート提出。(3)遊びの計画と実践の演習発表。(4)授業への参加状況(グループワーク時の発言)。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はS(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他		
	小テスト	○				20%		
	宿題・レポート	◎	○		◎	50%		
	発表・作品	○	◎		○	30%		
履修上の注意								

科目名	社会福祉							
科目名(英)	Social Welfare							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	山下琢也			
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院・高齢者施設にてソーシャルワーカー			
対象学科・学年	こども未来学科3年生							
授業概要	'福祉'を堅苦しい内容のものではないことを感じ、また、様々な社会現象や問題が自分たちからほど遠いことではなく、身近な部分とつながっていることも理解できることをめざす。							
授業形式	講義: <input checked="" type="radio"/>	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標		
	<input checked="" type="radio"/>					「福祉とは」についての概要を理解し、それを説明することができる。		
		<input checked="" type="radio"/>				福祉における重要な考え方である、「ノーマライゼーション」について理解し説明することができる。		
		<input checked="" type="radio"/>				年金制度の概要について理解し、自身の置かれている状況を理解することができる。		
		<input checked="" type="radio"/>				「ストレングス」「エンパワメント」の概念をもとに、人と関わる上で重要な事柄について理解することができる。		
			<input checked="" type="radio"/>			「福祉」が他人事ではなく、大いに自身の生活に関連することを理解し、		
テキスト・教材参考図書	講談社「コメディカルのための社会福祉 第4版」、教員自作PPT、プリント							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	オリエンテーション						
	2	「福祉」とは？～何気なく過ごしている日常に福祉は存在する～				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	「強み、力づける」① エンパワメントの概念				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	「強み、力づける」② ストレングスの概念				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	バリアフリーとユニバーサルデザイン①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	バリアフリーとユニバーサルデザイン②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	ノーマライゼーション①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	ノーマライゼーション②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	「ソーシャルワーク」とは？ 支援するとは？				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	社会福祉基礎構造改革について				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	診療報酬制度について				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	年金制度について①						
	13	年金制度について②				自身の年金制度の加入状況を確認すること		
	14	介護保険制度について①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	介護保険制度について②				定期試験の向けて、これまでの授業内容を確認しておくこと。		
評価方法	授業中の積極性を加味し、期末試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲		
	定期試験		<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>		80%		
	発表・授業参加度				<input checked="" type="radio"/>	20%		
履修上の注意	毎回の授業でパソコン(パワーポイント)を使用します。可能であれば様々な動画を通じて考える機会を設けたいと思いますので、動画放映の準備をお願いします。出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えません。							

科目名	教育相談							
科目名(英)								
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	矢野隆子		
実施年度	2020年度		実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	こども未来学科3年							
授業概要	近年、子供どうまく関われない、人間関係がうまく作れない保護者が増えてきており、保育者の間で、保護者対応がむづかしいという声を聞くようになった。保育者に子どもたちや保護者、地域の相談に適切に応じることのできる資質が求められている。この授業では保育者が保護者と子どもとの良い関わりを築き、そして保護者が子どもと良い関わりを築いていくために役立つ心理学やカウンセリング理論、対人関係の技術の修得を目指す。							
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標		
	○					幼児、保護者が抱える問題の相談に対応できるカウンセリングの諸理論と方法を説明できる		
		○				保育現場における子ども、保護者の問題に対して対応策を設定してそれを説明できる		
		○				支援者として身につけるカウンセリングマインドの重要性を説明できる		
		○				カウンセリングスキルを身につけ相談された際にどのように対応したらよいか説明できる		
			○			他者からの助言がなくても相談者のもつ心理的、社会的側面へ配慮することができる		
テキスト・教材参考図書	図書文化社 子育て支援カウンセリング							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	科目ガイダンス 教科の目的と授業法・構成的グループエンカウンター				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	よりよい子育て支援のためにー保護者の心を支える子育て支援の必要性				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	子育て支援に活かすカウンセリング理論ー来談者中心療法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	子育て支援に活かすカウンセリング理論ー精神分析療法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	子育て支援に活かすカウンセリング理論ーアドラー・ユング・交流分析				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	子育て支援に活かすカウンセリング理論ー行動療法・論理療法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	子育て支援に活かすカウンセリングの技法ー専門性としてのスキル				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	子育て支援に活かすカウンセリングの技法ーカウンセリングのスキル				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	日常の保護者との関わり方ー保育者の毎日と保護者との接点				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	日常の保護者との関わり方ー事例研究				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	養育困難をかかえる保護者への支援ー事例研究				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	障害のある子どもを持つ保護者への支援ー事例研究				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	精神疾患の疑いのある保護者の理解と対応ー事例研究				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	子育て支援に生かす構成的グループエンカウンター				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	保育者として自分と向き合うー自己理解と職場の人間関係				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する (2)授業への参加態度(グループワーク・ふり返りシート提出) 成績評価基準はS(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする							
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲		
	定期試験		◎	○		80%		
	グループワーク				◎	20%		
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない							

科目名	保育・教職実践演習							
科目名(英)								
単位数	1単位		時間数	16時間	担当者	中畔政憲・上村仁美・下川武志		
実施年度	2020年度		実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	こども未来学科 3年							
授業概要	これまでの講義で習得してきた知識や技術の総仕上げとして、演習を通して保育者としての実践力を高めるることを目指す。また、現場で活躍する保育者や卒業生の講話など見聞する機会を設け、自分の保育観をつくる機会とする。履修中の授業のハブ科目としてより、深く研究したり実践を行う授業とする。							
授業形式	講義: <input checked="" type="triangle"/>	演習: <input checked="" type="circle"/>	実習:	実技:	※ 主たる方法: <input checked="" type="circle"/> その他: <input type="triangle"/>			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	◎		○			幼稚園教諭・保育者として備えるべき姿勢や心構え、役割などの基本的な事項を理解し説明できる。		
	◎					保育者として今の時点での自分の保育観を見出すことや考えることができる。		
			◎			保育者としてチームで研究を行ったり、制作を進めたりするための協調性を養うことができる。		
テキスト・教材参考図書	なし							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	求職票受付面接に向けて～自分の保育観とは～				就職ノート持参		
	2	求職票受付面接に向けて～保育の仕事をする上での自分の強みとは～				就職ノート持参		
	3	求職票受付面接に向けて～自分の目指す職種の研究～				就職ノート持参		
	4	卒論に向けて～保育者になるために今後学習していきたいテーマ研究～						
	5	卒論に向けて～保育者になるために今後学習していきたいテーマ研究～						
	6	オペレッタに向けて～保育における創作劇製作①～						
	7	オペレッタに向けて～保育における創作劇製作②～						
	8	オペレッタに向けて～保育における創作劇製作③～						
	9							
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
	15							
評価方法	①授業態度②実践に対しての取り組み③出席率を以下の観点から評価する。評価を行う成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。							
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲		
	出席				○	30%		
	実践に対しての取り組み			○	○	30%		
	意欲・関心・態度				○	40%		
履修上の注意	3回以上の欠席は、単位習得を認めない。							

科目名	社会的養護内容Ⅱ					
科目名(英)						
単位数	1単位		時間数	16時間	担当者	上村 仁美
実施年度	2020年度		実施時期	前期	担当者実務経験	児童養護施設にて保育士として勤務
対象学科・学年	こども未来学科3年					
授業概要	児童福祉理念にたち、社会的養護が発生する背景や児童の福祉を保障する児童福祉施設の役割と実際等について理解する。児童福祉施設実習指導の科目と連動しており、児童福祉施設へ実習に行く為の必要な知識の習得図る					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
						こどもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する
						施設養護及び家庭養護の実際について理解する
						社会的養護におけるこどもの虐待防止と家庭支援について理解する
						社会的養護に関する法律の種類と目的・改正のポイントを理解する
テキスト・教材参考図書	よくわかる社会的養護内容 第3版 /ミネルヴァ書房					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	授業オリエンテーション/社会的養護におけるこどもの理解				授業用ノート準備
	2	社会的養護に関わる機関について				授業の当該範囲を読んでおく
	3	社会的養護に関連する法律				授業の当該範囲を読んでおく
	4	措置制度とは				授業の当該範囲を読んでおく
	5	利用・契約を基本とする施設				授業の当該範囲を読んでおく
	6	支援の実際				授業の当該範囲を読んでおく
	7	社会的養護における家庭支援 ~ソーシャルワークと家庭支援~				授業の当該範囲を読んでおく
	8	社会的養護の課題と展望				授業の当該範囲を読んでおく
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
評価方法	(1)授業の項目に応じてレポートの実施(2)授業中の発表・意欲・態度(3)出席 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲
	授業レポート		◎	○		50%
	発表・意欲・態度				◎	25%
	出席				○	25%
履修上の注意	児童福祉施設実習指導Ⅱの内容とリンクしています。					

科目名	保育実習事前事後指導 I (施設)SC					
科目名(英)						
単位数	1単位		時間数	16時間	担当者	上村 仁美
実施年度	2020年度		実施時期	前期	担当者実務経験	児童養護施設にて保育士として勤務
対象学科・学年	こども未来学科3年					
授業概要	施設実習指導の意義・目的・内容といった保育実習(施設)の全体的な枠組みを概説する。それに続いて、具体的な内容を通して児童福祉施設実習についての授業を行う。施設実習にあたっての実習前にすべき事柄・実習記録の作成の仕方などを学び、実習先の施設の理解や職員の支援の理解・入所児の理解に繋げていく					
授業形式	講義: <input checked="" type="radio"/>	演習: <input type="triangle"/>	実習:	実技:	※ 主たる方法: <input checked="" type="radio"/> その他: <input type="triangle"/>	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
			◎			保育実習(施設)の全体的な枠組みを理解し、実習に挑む心構えを作る事が出来る。
	◎					施設実習へ向かうにあたっての実習における具体的な目標を項目毎に立てることが出来る
	○ ○					実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。
	○ ○	○				振り返りを行う中でクラスメイトと自分の実習の体験や課題を共有する事が出来る
テキスト・教材参考図書	石橋裕子他編「新訂 知りたいときすぐにわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド 第2版」同文書院 2018年					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	施設実習に関する基礎理解と注意点				テキスト 実習日誌 必要書類を持参する
	日目	施設における保育内容と養護				テキスト 実習日誌 必要書類を持参する
		施設の役割と機能について				テキスト 実習日誌 必要書類を持参する
		施設実習持参書類などの最終確認				テキスト 実習日誌 必要書類を持参する
		日誌・指導案の記録について 実習における諸注意				テキスト 実習日誌 必要書類を持参する
評価方法	(1)SCの出席(2)事前レポート 目標シート(3)事後レポート(4)意欲・関心・態度を以下の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲
	(1)SCの出席					○ 10%
	(2)事前レポート 目標シート		◎	○		
	(3)事後レポート		◎	○		
	(4)意欲・関心・態度				◎	30%
履修上の注意	遅刻(30分以上)欠席の場合近畿大学の履修規定により、単位習得不可とする。					

科目名	【選択】保育実習事前事後指導ⅡSC					
科目名(英)						
単位数	1単位		時間数	16時間	担当者	上村 仁美
実施年度	2020年度		実施時期	前期	担当者実務経験	児童養護施設にて保育士として勤務
対象学科・学年	こども未来学科 3年					
授業概要	'保育実習」「教育実習」での自己評価と課題・反省を踏まえ、今後自身が保育者として働く上で必要な心構え、スキルについて再確認を行う。また、教材研究を行い、自身の長所を生かせる保育を創造していく。					
授業形式	講義: <input checked="" type="radio"/>	演習: <input type="triangle"/>	実習:	実技:	※ 主たる方法: <input checked="" type="radio"/> その他: <input type="triangle"/>	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標
	<input checked="" type="radio"/>					自身の課題・今後の学習課題について再確認することができる
	<input checked="" type="radio"/>					保育者になるという前提を基に明確な実習に対する目標を持つ事ができる
		<input checked="" type="radio"/>				教材研究を通して自身と向き合い、自身の強みに気づく事ができる。
			<input checked="" type="radio"/>			自身の強みを保育に活かし、より実践的な教材研究を行う事ができる。
テキスト・教材参考図書	なし					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	実習目標シート作成				
	2	保育教材発表①				
	3	保育教材発表②				
	4	講義「今までの実習の振り返りを踏まえて」				
	5					
	6					
	7					
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
評価方法	(1)SCの出席(2)授業への参加・意欲・発表(3)レポートを以下の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
	SCへの出席		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲
	授業への参加・意欲・発表		<input checked="" type="radio"/>		<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
	レポート		<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>		40%
履修上の注意	遅刻(30分以上)欠席の場合、近畿大学の履修規定により、単位習得不可とする					

科目名	【選択】保育実習事前事後指導ⅢSC					
科目名(英)						
単位数	1単位		時間数	16時間	担当者	上村 仁美
実施年度	2020年度		実施時期	前期	担当者実務経験	児童養護施設にて保育士として勤務
対象学科・学年	こども未来学科3年生					
授業概要	保育実習(施設)の実習を踏まえて、保育事前実習の経験から得られた成果と課題を認識する。保育実習を振り返る事で、今後の保育実習(単位実習)の課題解決をクラス内で共有することで日常生活における自己のあり方を再考し実践すること、保育士として今後自分がどのように自己研鑽していくべきかを改めて考察する。					
授業形式	講義: <input checked="" type="radio"/>	演習: <input type="triangle"/>	実習:	実技:	※ 主たる方法: <input checked="" type="radio"/> その他: <input type="triangle"/>	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>			保育事前実習で得られた経験をしっかりとまとめ、クラスメイトに共有する事が出来る
		<input checked="" type="radio"/>				保育現場における課題を明確にすることができる。
			<input checked="" type="radio"/>			保育事前実習を通じて得られた、自己課題を発見し見つめ直すことで保育者・人としてあるべき姿について再考することができる。
テキスト・教材参考図書	『知りたい時にすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド』石橋裕子・林行範著					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	保育実習の内容の振り返り(各自でまとめる)				実習の振り返りシート持参
	2	保育実習の内容の振り返り(クラスでの発表)				実習の振り返りシート持参
	3	保育実習での振り返りについて課題の共有・ケース検討				
	4	まとめ 発表 「保育者としての今後の自己課題」				
	5					
	6					
	7					
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
評価方法	(1)振り返りシートの内容(2)発表・グループ討議の内容と姿勢(2)出席 以上を下記の観点、割合で評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする					
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲
	振り返りシート		<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
	発表・グループ討議		<input checked="" type="radio"/>		<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
	出席				<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。					

科目名	乳児保育SC					
科目名(英)						
単位数	1単位		時間数	16時間	担当者	眞崎 明日香
実施年度	2020年度		実施時期	前期	担当者実務経験	乳児院で保育士として勤務
対象学科・学年	こども未来学科 3年					
授業概要	講義や演習を通して乳児保育の理念や乳児保育の役割を学ぶ。グループ演習で、乳児期の子どもへの対応や保護者への支援など、保育者としての基本姿勢を学ぶ。また、乳児の年齢や発達を考慮した教材研究のワークを通し、乳児保育についての理解を深める					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標
	○					乳児保育の理念と乳児保育の役割について学ぶ
	○					乳児期の子どもの発達について学びその生活や遊びについて理解する事ができる
		○				保護者と保育者、関係機関の望ましい連携について考えられる。
	○	○				乳児の発達や月齢を理解した上で乳児保育に使用できる教材を作り、発表する事が出来る
テキスト・教材参考図書	志村聰子編著 「はじめて学ぶ乳児保育 改訂版」 同文書院 2018年					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	乳児保育とは何か。乳児保育の重要性				教材作成に必要な材料を持ってくる
	2	演習:乳児保育における教材の研究(手袋シアター作成)				教材作成に必要な材料を持ってくる
	3	演習:乳児保育における教材の研究(手袋シアター発表)				教材作成に必要な材料を持ってくる
	4	演習:乳児保育における教材の研究(まとめと考察)				
	5	乳児期の発達				
	6	乳児保育における基本的知識と援助				
	7	グループ演習:実習先の乳児との関わりを通して				
	8	保育者と保護者との連携と子育て支援				
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
評価方法	(1)SCの出席(2)授業への取り組み(3)教材の完成度(4)演習での発表内容 以上を以下の観点・割合で評価を行う。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲
	SCの出席					○ 10%
	意欲・関心・態度				○	30%
	作品			○		30%
	発表内容		○	○		30%
履修上の注意	近大のSC履修の規定により、30分以上の遅刻・欠席は単位習得不可とする					

科目名	子どもの保健ⅡSC					
科目名(英)						
単位数	1単位		時間数	16時間	担当者	川端 いづみ
実施年度	2020年度		実施時期	前期	担当者実務経験	養護教諭
対象学科・学年	こども未来学科 3年					
授業概要	子どもの健康と保育を考え、現場で役立つ救急時の対応を身につける。また、赤ちゃんの沐浴や抱き方、オムツの換え方等を習得する。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○	○			赤ちゃんへの救命救急の方法を理解し、実践できる
	○	○	○			赤ちゃんへの抱き方、沐浴の仕方、オムツ交換を実践できる
	○	○	○			大人も含めたバイタル(血圧測定)・包帯の巻き方や止血方法を習得できる
	○	○	○			グループでの活動に積極的に参加し、自分だけでなくメンバーにより影響を与えることができる
テキスト・教材参考図書	よくわかる子どもの保健					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	子どもの保健と案全についての概念				スクーリングのオリエンテーションと目標設定
	2	赤ちゃんの抱き方とおむつ交換の演習とテスト(モデル人形での演習)				モデル人形を使ってグループで練習し、全員が合格するまでテストを受ける
	3	沐浴の演習とテスト(モデル人形での演習)				モデル人形を使ってグループで練習し、全員が合格するまでテストを受ける
	4	赤ちゃんの心配蘇生方法の演習とテスト(モデル人形での演習)				モデル人形を使ってグループで練習し、全員が合格するまでテストを受ける
	5	バイタルサインの測定演習とテスト				グループメンバーをモデルにして練習を行い、全員が合格するまでテストを受ける
	6	包帯の巻き方演習とテスト				グループメンバーをモデルにして練習を行い、全員が合格するまでテストを受ける
	7	子どものケガ及び安全対策、応急処置の方法演習とテスト				グループメンバーをモデルにして練習を行い、全員が合格するまでテストを受ける
	8	日間のまとめと振り返り				最後にグループ対抗の競争を行い(包帯の演習)、その後振り返りを一人ずつ言ってもらう
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。					
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲
	演習とテストの技能点		○	◎	○	50%
	グループ内での協働・参加状況				◎	20%
	振り返りのレポート作成		○			30%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。					

科目名	保育相談支援SC					
科目名(英)						
単位数	1単位		時間数	16時間	担当者	瀧口 直子
実施年度	2020年度		実施時期	前期	担当者実務経験	
対象学科・学年	こども未来学科 3年					
授業概要	保育相談支援の基本的知識や方法・技術を講義・演習を通して学ぶ。保育者として、保護者の気持ちや支援の必要性を理解し、保護者を支えていくために保育者自身に必要な知識や想い、支援の環境などを学ぶ。また、保護者支援や日々の保護者とのコミュニケーションに必要な伝え方の技術なども演習を通して習得する。					
授業形式	講義: <input checked="" type="radio"/>	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○					保護者支援の意義や必要性が説明できる
	○	○				保育者として必要な「伝え方」の技術を演習を通して習得できる。
		○	○			グループワークにおいて、自己理解を促したり、事例を基に保護者への対応を具体的に考える事が出来る
	○					保育においての相談支援の方法を考える事が出来る。
テキスト・教材 参考図書	なし					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	保育相談支援とは何か				
	2	保育相談支援の基本				
	3	保育士と保育相談支援				
	4	保育相談支援の技術と方法～教材のプレゼンテーションを通して学ぶ事～				
	5	事例:「保育における保護者への伝え方」グループ学習				
	6	事例についてのグループ発表				
	7	保育者の価値観とは				
	8	振り返り・まとめ				
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
評価方法	(1)SCの出席(2)授業中の意欲・関心・態度(3)グループ学習の取り組み(4)発表内容(5)レポートを以下の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲
	SCの出席					○ 10%
	意欲・関心・態度				◎	20%
	グループ学習の取り組み		○		◎	20%
	発表		◎		○	30%
	レポート		◎			20%
履修上の注意	近畿大学の履修規定により30分以上の遅刻、欠席は単位習得不可とする					

科目名	障害児保育SC					
科目名(英)						
単位数	1単位		時間数	16時間	担当者	渡邊 裕子
実施年度	2020年度		実施時期	前期	担当者実務経験	児童発達支援センター 園長
対象学科・学年	こども未来学科 3年					
授業概要	本スクーリングでは、1日目に児童発達支援センターでの1日体験を行い、この体験をベースに2日目には園長先生による講義を実施する。この2日間を通して、障害を持つ子どもたちとその家族に必要な保育・支援の基礎的理解が深まるなどをめざす。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	△	○	△			児童発達支援センターの園児との関わりを通して、児発の役割や保育内容を理解する
	△	○	△			園長先生の講義を通して、児発の役割や保育内容の理解を深めることができる
			○			障害を持つ子どもとその家族について関心を持ち、保育士に求められることを考える
		○	△			グループワークに積極的に参加し、事例分析を行うことを通して、他者の意見を折り混ぜながら障がい児の療育について学びを深めることができる
テキスト・教材 参考図書						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	1日目 児童発達支援センターの概要説明				園長先生より講義
	2	1日目 児童発達支援センターの保育参加				グループに分かれて各クラスの保育に入る
	3	1日目 体験を通しての疑問、改めて児発センターの役割を知る				保育に入って感じた疑問等を質問し、児童発達支援センターや専門職の役割や現状について学ぶ
	4	1日目 振り返りのレポートを記入				体験しての感想レポートを記入し提出
	5	2日目 レポートより質問に答えて				園長先生より前日のレポートからの疑問に答えて知識の深堀りを行う
	6	2日目 事例の検討(グループに分かれて)				事例を提示し、グループで検討し、劇にして発表するための準備を行う
	7	2日目 事例検討の発表(劇にする)				劇の発表と質疑応答
	8	2日目 全体を振り返って				全体の講評とまとめの講義
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。					
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲
	保育への参加状況				◎	20%
	振り返りのレポート①		◎	△	○	30%
	グループワークへの参加状況		○	◎	○	20%
	振り返りのレポート②		◎	○	○	30%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。					

科目名	社会的養護内容SC					
科目名(英)						
単位数	1単位		時間数	16時間	担当者	中山 八保子
実施年度	2020年度		実施時期	前期	担当者実務経験	保育所、児童養護施設、児童労働支援センターにおいて、 保育士として勤務
対象学科・学年	こども未来学科 3年					
授業概要	今までの社会的養護系の科目や児童福祉施設実習指導などを基に、実際の保育実習Ⅰ(施設)の前に今一度社会的養護についての知識・理解を深めると共に、実際の児童養護施設の施設見学や、施設長・職員の方の講話を聞き、社会的養護の現状やそこで働く職員の方の「想い」やこども達への遭遇の実際を学ぶ事により、保育実習Ⅰ(施設)のイメージを作り、意欲的に実習に向かう為のSCとする。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標
	○					児童福祉施設の種類やその目的について理解する事ができる
	○					施設の見学を通して、児童養護施設の対象児の生活をイメージする事ができる
	○	○				施設の見学を通して、社会的養護の目的や仕組みを理解する事ができる
	○	○	○			講義・施設見学を通して、施設実習に向けての配慮点の理解や実習中の心得を習得する
テキスト・教材 参考図書						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	講義:社会的養護とは				
	2	講義:施設見学前指導				
	3	施設見学(嘉麻学園)				スーツ着用
	4	施設見学(嘉麻学園)				スーツ着用
	5	施設見学(嘉麻学園) 施設長・職員の方からの講義				スーツ着用
	6	振り返り (施設見学を通して)				
	7	振り返り (施設見学を通して)				
	8	振り返り (施設見学を通して) まとめ				
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
評価方法	(1)施設見学の取り組み・意欲(2)振り返りの取り組み・レポート(3)SCの出席 以上を以下の観点・割合で評価する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲
	取り組み・意欲				◎	20%
	振り返りの取り組み・レポート		◎		○	30%
	出席				○	50%
履修上の注意	SCIに欠席・大幅な遅刻の場合は近畿大学の規定により再履修となる					

科目名	相談援助SC							
科目名(英)								
単位数	1単位		時間数	16時間	担当者	瀧口 直子		
実施年度	2020年度		実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	こども未来学科 3年							
授業概要	保育者として必要とされる相談支援活動の基礎を習得し、子どもの発達支援と保護者支援の側面からDVDや事例を通して相談援助の基盤と「保護者の想い」や「子どもが集団の中で育ちあう大切さ」・子ども支援を取り巻く環境・制度の理解を深めていく。							
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○					DVDの視聴から保護者の想いを汲み取る事が出来る。		
	○					汲み取った保護者の想いを基に保育者の対応・支援を考える事が出来る		
	○					保育における相談援助の基礎知識が習得できる		
	○					保育における保護者支援の制度や療育の流れが説明できる		
	○					保育における相談援助の必要性が説明できる		
テキスト・教材参考図書	DVD 「たったひとつのたからもの」							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	保育における相談援助とは						
	2	DVD視聴 「たったひとつのたからもの」						
	3	演習:「たったひとつの宝物」から学ぶ 保護者の想い						
	4	講義:こどもの療育・発達における相談援助						
	5	発達支援と保護者支援						
	6	集団の中で育ちあう子どもたち						
	7	保育における保護者支援の制度						
	8	振り返り・まとめ						
	9							
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
	15							
評価方法	(1)SCの出席 (2)授業への意欲・関心・態度 (3)演習における発表内容 (4)授業レポート 以上を以下の観点・割合から評価を行う。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲		
	SCの出席					○ 10%		
	意欲・関心・態度				○	30%		
	発表				○	30%		
	レポート提出		○			30%		
履修上の注意	近大の履修規定により30分以上の遅刻・欠席は単位習得不可とする							

科目名	保育実習 I (施設)						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	80時間	担当者	上村 仁美	
実施年度	2020年度		実施時期	前期	担当者実務経験	児童養護施設にて保育士として勤務	
対象学科・学年	こども未来学科3年						
授業概要	保育士資格を取得するために児童福祉施設(保育所以外)で行う実習。乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設などの養護施設や障害児入所施設・障害者支援施設などの障害者施設で実習を行う。10日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ①施設における1日の流れ ②子どもや障害者への理解を深める ③施設保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ ④施設の技術や記録方法について実践的に学ぶ ⑤保育士を志すものとして自覚を高める						
授業形式	講義:	演習:	実習: <input checked="" type="radio"/>	実技:	※ 主たる方法: <input checked="" type="radio"/> その他: <input type="radio"/>		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○			施設現場で養護と療育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのようにつながるか理解することができる	
			○			実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる	
			○			自分なりの保育観や子ども観を深め確立する	
テキスト・教材 参考図書	幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領保育所保育指針解説書						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	10.日間	施設実習では以下の観点から施設における保育がどのようになされているのかを理解する				手遊び、歌遊び、絵本の読み聞かせなどの教材や設定保育など施設実習に向けた準備をする・各自の実習のねらい、課題を明確にする・実習後の日誌作成のまとめと、実習の反省と課題を明確にする	
		1 施設の内容・昨日などを理解する (1日の流れ、子どもの活動など)					
		2 施設保育士の職務内容および役割 また、ほかの職員とのチームワークなどの理解					
		3 子どもを取り巻く社会や家族の問題について理解する					
		4 日誌の書き方を学ぶ					
		担当保育者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加する事					
評価方法	①実習日誌・事後レポートなどの提出物 ②実習施設の評価 ③勤務状況等を総合的に評価する成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	
	提出物	<input checked="" type="radio"/>		<input checked="" type="radio"/>		50%	
	実習施設の評価	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>		30%	
	勤務状況等			<input checked="" type="radio"/>		20%	
履修上の注意	実習要件科目の単位をすべて修得していること						

科目名	【選択】保育実習Ⅱ							
科目名(英)								
単位数	2単位	時間数	80時間	担当者	上村 仁美			
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	児童養護施設にて保育士として勤務			
対象学科・学年	こども未来学科3年							
授業概要	前回の保育所実習を生かし、子どもの年齢や発達に応じた保育展開、状況に応じた保育の実践、さらに子育て支援としての保育所の役割を踏まえた保育実践に努める							
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
			○			「保育実習Ⅰ」を通して学んだ技術と理論を基礎として、保育士として必要な資質、能力、技術を向上させる		
			○			子育て支援をするために必要な知識・技術とニーズに対する理解力・判断力を養うことができる		
テキスト・教材 参考図書	幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領保育所保育指針解説書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	保育実習Ⅱでは、以下の観点から保育士としての実践力を高めていくよう努める ①子どもの年齢や発達に応じた保育や遊びの展開を行う ②その場の状況に応じた子どもへの対応と保育について理解する ③問題のある子どもや保護者に対する対応について理解する ④延長保育や休日保育、育児相談など子育て支援事業の理解 ⑤保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等の実践と理解 (部分実習、全日実習、査定実習) ⑥保育士としての自己の課題を明確化する できるだけ、部分実習や全日実習を行い、実践力を養うよう努めること				手遊び、歌遊び、絵本の読み聞かせなどの教材や設定保育など保育実習に向けた準備をする・各自の実習の狙い、課題を明確にする・実習後の日誌作成のまとめと、実習の反省と課題を明確にする		
評価方法	①実習日誌・事後レポートなどの提出物 ②実習園の評価 ③勤務状況等を総合的に評価する成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする							
	提出物		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲		
	実習園の評価		○	○	◎	50%		
	勤務状況等				◎	30%		
						20%		
履修上の注意	・実習要件科目の単位をすべて修得していること ・保育実習Ⅰ(保育所)および保育実習Ⅰ(施設)を終えておくこと							

科目名	【選択】保育実習Ⅲ							
科目名(英)								
単位数	2単位	時間数	80時間	担当者	上村 仁美			
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	児童養護施設にて保育士として勤務			
対象学科・学年	こども未来学科3年							
授業概要	児童福祉施設(保育所以外)、その他の社会福祉施設での養護についての専門的な理解と技術を学び、児童家庭福祉及び社会的養護、障害者福祉に対する理解のもとに、保護者支援、家庭支援、障害児支援のための知識、技術、判断力を養う							
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標		
				○		既習の強化や「保育実習Ⅰ」での実践を通して学んだ技術と理論を基盤として、保育士として必要な資質、能力、技術を習得する。		
				○		家庭と地域の生活実態にふれ、子育てを支援するために必要とされる能力を養う		
				○		児童家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解力、判断力を養い、福祉の視点を持った保育士を目指す		
テキスト・教材参考図書	幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領保育所保育指針解説書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	10.日間	以下の観点から保育士としての実践力を高めていくよう努める ①児童福祉施設やその他の社会福祉施設の社会的役割と施設保育士の役割 ②児童福祉施設やその他の社会福祉施設における利用児・者と家族支援の理解 ③養護、療育内容・方法の理解 ④多様な専門職との連携 ⑤保育士としての自己課題の明確化				・保育実習Ⅰ(施設)の反省点や自分の課題をまとめおくこと・絵本やペーパーサート、運動遊びなどの保育実技を学習すること・授業後にレポートを作成し、学習内容を深める		
評価方法	①実習日誌などの提出物 ②実習施設の評価 ③勤務状況等を総合的に評価する成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする							
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲		
	提出物		○		◎			
	実習施設の評価		○	○	◎			
	勤務状況等				◎			
履修上の注意	・実習要件科目の単位をすべて修得していること ・保育実習Ⅰ(保育所)および保育実習Ⅰ(施設)を終えておくこと							

科目名	音楽表現Ⅲ							
科目名(英)	Music PerformanceⅢ							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中村寛子/小賀直美/石丸真理子/木下美智子/長谷川裕子/藤田一美/古田淳子			
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	近畿大学九州短期大学特任講師(中村)			
対象学科・学年	こども未来学科3年							
授業概要	<p>保育の現場では、音楽は必須のものとなる。朝登園後「おはようの歌」、昼食には「お弁当の歌」、お昼寝時には「お休みの歌」、降園時には「お帰りの歌」、その他にも自然や季節を感じて感性を高めるために「様々な季節の歌」、「遊びうた」、誕生会等の行事に行進を促す「行進曲」等。その音楽をすべて、保育士が把握をし、ピアノで伴奏していくかなければいけない。この授業ではできる限り沢山の曲を歌い、ピアノ演奏する。そのために必要な技術、知識を身に付けるものである。1年生の間は、とにかくピアノになれることが、ピアノを嫌いにならないこと、楽譜を読めるようになること、正しい音程で歌えるようになること、等を目標にして授業を進める。3年生は更に、単位実習、採用試験、ピアノ発表会があるため、実習先からもってくる曲や、採用試験曲を最優先に授業に臨む。従って、授業としての課題は多くは設定せず、臨機応変に対応する。</p>							
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○					音楽の基本知識となる「楽典」の習得、音符や休符、表紙、記号等の知識		
		○				ピアノ演奏実技の習得(正しい運指、テクニック、左右の手のスムーズな動き、バラバラな動きに対するスムーズな動き)		
		○				声楽の基本実技の習得(正しい音程、呼吸法、リズム等)		
		○				ピアノ演奏における表現力の習得、強弱、スタッカート、レガート、マルカート、レッジェロ等)		
テキスト・教材参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・近畿大学九州短期大学発行/ピアノ教本、声楽教本 ・ヤマハミュージックメディア発行/はじめての楽典ブック ・チャイルド社発行/子どもの歌100 ・音楽之友社/バイエル教則本・講師作成の楽譜(ファイル保管) 							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	バイエル93番				バイエル93番・自宅練習		
	2	バイエル94番				バイエル94番・自宅練習自宅練習		
	3	せんろはつづくよどこまでも				せんろはつづくよどこまでも・自宅練習		
	4	練習				練習		
	5	お化けなんてないさ				おばけなんてないさ・自宅練習		
	6	アンパンマン体操				アンパンマン体操・自宅練習		
	7	練習				練習		
	8	ぼくのミックスジュース				ぼくのミックスジュース・自宅練習		
	9	練習				練習		
	10	手のひらを太陽に				手にひらを太陽に・自宅練習		
	11	練習				練習		
	12	1年生になつたら				1年生になつたら・自宅練習		
	13	練習				練習		
	14	練習				練習		
	15	前期試験						
評価方法	1曲ごとに合格し、すべての曲に合格しなければいけない。また、授業外練習も重要になるため、意欲、態度は非常に重要となる。							
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲		
	定期試験		◎	◎		80%		
	小テスト			◎	○	20%		
履修上の注意	ピアノはとても難しい楽器である。毎日継続して練習しなければ、弾けるようにはならない。授業外でも参煮の反復練習が必須である。							

科目名	ペン字Ⅱ							
科目名(英)	Pennmanship Ⅱ							
単位数	1単位	時間数		16時間	担当者	入江 陽子		
実施年度	2020年度	実施時期		前期	担当者実務経験	書道講師36年		
対象学科・学年	こども未来学科3年							
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 保育者として、日常生活における硬筆書写の一般的な知識・理解を深め、業務遂行時に実践できる基礎力を習得する 正しいペンの持ち方・姿勢を守り書写する事により集中力につける 							
授業形式	講義:	演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○					正しい言葉使いで自分の履歴書を書く事が出来る		
		○				書式に従って、美しい文字で書写する事が出来る		
		○				正しいペンの持ち方・姿勢で書写する事が出来る		
			○			集中力を持って取り組む事が出来る		
テキスト・教材参考図書	なし							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	ペン字の基本－氏名・漢字楷書体				氏名の練習をしておくこと		
	2	ペン字の基本－平仮名・数字				楷書体の練習をしておくこと		
	3	履歴書－履歴書の書式				履歴書の必要事項を調べておくこと		
	4	履歴書－履歴書の練習				履歴書の下書きを仕上げておくこと		
	5	履歴書－履歴書の清書				履歴書のペン書きをしておくこと		
	6	実用書－手紙文を書く				履歴書の清書を提出出来るようにする		
	7	実用書－掲示物を書く				お札状を仕上げておく事		
	8	実用書－はがきの書式				はがきを持参しておくこと		
	9							
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
	15							
評価方法	(1)授業の中で清書した履歴書を試験のかわりとして評価する (2)小テストを意欲点として評価する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲		
	履歴書		○	◎		80%		
	小テスト				◎	20%		
履修上の注意	黒の水性ボールペンを用意 最終回は暑中見舞い用のはがきを用意 履歴書实物を用意しておくこと							

科目名	一般教養Ⅲ																																																						
科目名(英)																																																							
単位数	1単位		時間数	16時間	担当者	岩下 隆司																																																	
実施年度	2020年度		実施時期	前期	担当者実務経験	社会人スクール講師3年 専門学校教員21年																																																	
対象学科・学年	こども未来学科3年																																																						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園・幼稚園で行われる季節ごとの行事(五節供、お月見、お正月など)について、由来や行事の意味を理解し、将来の保育に活かす ・季節ごとの祭りの由来や意味、遊びなどを知ることで、それぞれの季節に合った保育や遊びの参考にする 																																																						
授業形式	講義: <input checked="" type="radio"/>	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△																																																		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標																																																	
	<input checked="" type="radio"/>					季節ごとにどのような行事があるか説明できる																																																	
	<input checked="" type="radio"/>					各行事の意味や由来を説明できる																																																	
	<input checked="" type="radio"/>					季節ごとにどのような遊びがあり、保育を行う上でどのように活かせるか、例を挙げることができる																																																	
テキスト・教材 参考図書																																																							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示																																																	
	1	年中行事 お正月① - お正月の由来																																																					
	2	年中行事 お正月② - 新年を迎える準備																																																					
	3	年中行事 お正月③ - お正月の食べ物・風物																																																					
	4	五節供① - 人日・上巳																																																					
	5	五節供② - 端午・七夕・重陽																																																					
	6	季節の祭りと遊び① - 春・夏																																																					
	7	季節の祭りと遊び② - 秋・冬																																																					
	8	その他の行事 - 母の日・父の日・敬老の日・勤労感謝の日など																																																					
	9																																																						
	10																																																						
	11																																																						
	12																																																						
	13																																																						
	14																																																						
	15																																																						
評価方法	<p>定期試験(筆記)を実施し、下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>言語情報</th><th>知的技能</th><th>運動技能</th><th>態度・意欲</th><th>その他</th><th>評価割合</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定期試験</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>80%</td></tr> <tr> <td>授業態度</td><td></td><td></td><td></td><td>◎</td><td></td><td>20%</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>							言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	定期試験	◎					80%	授業態度				◎		20%																												
	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合																																																	
定期試験	◎					80%																																																	
授業態度				◎		20%																																																	
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。																																																						

科目名	児童福祉施設実習指導Ⅱ					
科目名(英)						
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	上村 仁美
実施年度	2020年度		実施時期	前期	担当者実務経験	児童養護施設にて保育士として勤務
対象学科・学年	こども未来学科 3年					
授業概要	児童福祉施設の実習に必要な事前学習を行い、日誌の記入の仕方の習得、入所児の理解、施設の概要の理解を行い実践の場でもある単位実習に繋げる学習にする。また、就職年次の学年の実習として位置づけている為、保育者となる上での児童福祉の理解、そこで働く保育者の想いに触れる実習にとする為の事前学習の場とする。					
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	◎					実習に必要な児童福祉施設の理解(施設概要の理解・対象児・職員の職種)が出来る。
	○ ○					施設実習に必要な日誌の書き方、考察の仕方の習得を行う
	◎					児童福祉施設の施設の種類や目的が説明出来る
テキスト・教材参考図書	新訂 知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 第2版/ 石橋裕子・林幸範著					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	授業オリエンテーション 施設実習とは				教科書の当該範囲を読んでおく
	2	宿泊の実習について				教科書の当該範囲を読んでおく
	3	試し行動・愛着について				教科書の当該範囲を読んでおく
	4	試し行動・愛着について②				教科書の当該範囲を読んでおく
	5	乳児院について				教科書の当該範囲を読んでおく
	6	児童発達センターについて				教科書の当該範囲を読んでおく
	7	入所しているこども達について				教科書の当該範囲を読んでおく
	8	実習で使われる福祉用語について				教科書の当該範囲を読んでおく
	9	実習日誌の書き方について				実習日誌持参
	10	実習日誌の書き方について②				実習日誌持参
	11	その他の児童福祉施設について				教科書の当該範囲を読んでおく
	12	その他の児童福祉施設について②				教科書の当該範囲を読んでおく
	13	実習 シュミレーション (ケース検討)				
	14	実習シュミレーション① (守秘義務 ケースについて)				
	15	まとめ 実習直前指導				
評価方法	(1)提出物の内容(日誌も含む)(2)授業中の発表・意欲・態度(3)実習評価 (4)出席 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲
	提出物		◎		○	30%
	発表・意欲・態度		◎	○		20%
	実習評価			○	◎	30%
	出席				◎	20%
履修上の注意	正試験を行う代わりに授業の取り組み方、提出物、発回数・内容などで評価を行います					

科目名	保育園実習指導Ⅲ					
科目名(英)						
単位数	1単位		時間数	16時間	担当者	上村 仁美
実施年度	2020年度		実施時期	前期	担当者実務経験	児童養護施設にて保育士として勤務
対象学科・学年	こども未来学科3年					
授業概要	いままでの教育実習、保育実習、施設実習での経験をもとに、より実践的な学びへと昇華し、学びの中で自身が保育者として現場で働くという視点に重きを置き、保育のみならずクラス担任としての業務や職員間、小学校、地域、家庭との連携などより広い視野を持った実習を行えるよう知識、技術の習得を目指す。					
授業形式	講義: <input checked="" type="radio"/>	演習: <input type="triangle"/>	実習:	実技:	※ 主たる方法: <input checked="" type="radio"/> その他: <input type="triangle"/>	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標
	<input checked="" type="radio"/>					現代社会のありようを理解したうえで保育所の社会的役割について説明することが出来る。
	<input checked="" type="radio"/>					保育所保育指針の改定を受け保育者の役割を正しく理解する。
		<input checked="" type="radio"/>				各地域における地域性を理解し、保育の特色、特性、役割を理解する。
			<input checked="" type="radio"/>			自身の知識、経験を活用し個性ある教材研究を行う。
テキスト・教材参考図書	新訂 知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 第2版/ 石橋裕子・林幸範著					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	授業オリエンテーション 保育実習Ⅱの目的について				保育実習Ⅰの日誌に目を通し自身の実習を振り返ること
	2	保育実習Ⅰの実習評価と振り返り、保育実習Ⅱの目標設定				
	3	保育所の社会的役割と保育者に求められるもの				
	4	地域における保育の特色と特性				様々な教材を調べ自身の研究アイデアをイメージしておくこと
	5	教材研究概要について				教材研究に必要な道具を揃えておくこと
	6	教材研究				教材研究に必要な道具を揃えておくこと
	7	教材研究				教材研究に必要な道具を揃えておくこと
	8	教材研究				
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
評価方法	①授業態度 ②提出物 ③研究への取り組み以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲
	授業態度		<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	50%
	提出物		<input checked="" type="radio"/>		<input checked="" type="radio"/>	20%
	研究への取り組み			<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	30%
履修上の注意	出席が6回に満たないものに単位の取得は認めない					

科目名	オペレッタⅡ							
科目名(英)	Operetta II							
単位数	1単位		時間数	16時間	担当者	中畔 政憲		
実施年度	2020年度		実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	こども未来学科 3年							
授業概要	これまでの学校の授業で習得した保育の知識・技術を活用しながら、小学生を対象とした創作劇の制作・発表の実践を経験する事により、保育の現場に出た時の表現力・企画力に繋げる。また、クラスで時間を掛け一つの劇を作り上げていく過程から、チーム力・協働性などを身につけ、3年間の集大成の一つの行事とする。							
授業形式	講義:	演習: <input checked="" type="radio"/>	実習:	実技:	※ 主たる方法: <input checked="" type="radio"/> その他: <input type="radio"/>			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	◎	○	○			小学校でのオペレッタ発表に必要な道具・衣装を完成させる		
	○	○	○			こども達の年齢にふさわしい題材・内容にあったオペレッタの練習を行い完成させる		
			◎			クラスで協力し、オペレッタの製作を通してクラスの団結力を養う		
		◎	◎			学生が主体となり、それぞれが自分の役割を全うし、オペレッタを完成する事が出来る		
テキスト・教材参考図書	なし							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	オペレッタ制作 練習 2年生までの進捗状況確認				放課後等を利用して練習すること		
	2	オペレッタ制作 練習 大道具 小道具製作				放課後等を利用して練習すること		
	3	オペレッタ制作 練習 衣装製作				放課後等を利用して練習すること		
	4	オペレッタ制作 練習				放課後等を利用して練習すること		
	5	オペレッタ制作 練習 通し稽古				放課後等を利用して練習すること		
	6	オペレッタ制作 練習 通し稽古				放課後等を利用して練習すること		
	7	オペレッタ制作 練習 音響				放課後等を利用して練習すること		
	8	オペレッタ制作 練習 小学校での達稽古に向けて				放課後等を利用して練習すること		
	9							
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
	15							
評価方法	①練習への取り組み・意欲②各自の役割に対しての取り組み③作品の完成度などから以下の観点で評価を行う。評価を行う成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下とする)							
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲		
	意欲・関心・態度				◎	50%		
	実践への取り組み				◎	30%		
	作品の完成度			○	○	20%		
履修上の注意	オペレッタの担当の学生を中心に練習・制作計画を提出してもらい準備・実践を行っていく。							

科目名	卒業論文Ⅰ							
科目名(英)								
単位数	1単位		時間数	16時間	担当者	中畔 政憲		
実施年度	2020年度		実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	こども未来学科 3年							
授業概要	3年間の学修に基づき、興味のあるテーマについて実践と理論を結び付け、エビデンスを基に科学的に論じる方法を学ぶ。単著とするか共著とするかは、学生が選択する。							
授業形式	講義: <input checked="" type="radio"/>	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法: <input checked="" type="radio"/> その他: <input type="radio"/>			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標		
	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		証明したいことがらについて論理的に述べることができる。		
	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		論文の中において、説得性のある資料提示ができる。		
	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		論文の構成について構想することができる。		
	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		共著とする場合、分担しながら協力して作業を進めることができる。		
テキスト・教材 参考図書	なし							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	オリエンテーション						
	2	論文の構想(単著にするか共著にするか)						
	3	先行論文研究						
	4	先行論文研究						
	5	先行論文研究						
	6	先行論文研究						
	7	先行論文研究						
	8	先行論文研究						
	9							
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
	15							
評価方法	評価は以下の通りとする。 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。							
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲		
	論文審査		<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>		
	取り組む態度		<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>		
	プレゼンテーション力		<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>		
履修上の注意	2/3以下の出席状況にて、単位習得不可とする。							

科目名	就職実務 II							
科目名(英)	employment practical affairs II							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	中畔 政憲		
実施年度	2020年度		実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	こども未来学科 3年							
授業概要	就職活動に伴う意欲・心構えの向上を目指し、就職への意識を高める。就職活動に必要な求職票受付面接への指導や、履歴書の作成の仕方、社会人としてのマナーの学習や今後の人生設計や社会人生活について深く考える							
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○	○			求職票受付面接に合格する。また、受験に必要な際の求職票を完成させる事が出来る		
	◎		◎			何の為に働くのか何故、この職種につきたいかなど自分の就職に対しての考えを明確にする事が出来る		
	◎					就職活動に関する一連の流れを理解する事ができる		
テキスト・教材 参考図書	就職ガイドブック							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	求職票受付面接について①				求職票を持参する		
	2	求職票受付面接について②				求職票を持参する		
	3	就職活動の流れについて				就職ノートを持参する		
	4	作文教室						
	5	働く事について考える						
	6	保育フェアについて(6月上旬)						
	7	福岡市保育協会講話(6月下旬)						
	8	履歴書作成①				履歴書を用意する		
	9	履歴書作成②				履歴書を用意する		
	10	就職試験について						
	11	就職試験対策①						
	12	就職試験対策②						
	13	就職試験対策③						
	14	就職試験対策④						
	15	就職試験対⑤まとめ						
評価方法	(1)授業の出席 (2)授業に対しての意欲・関心・態度 以上を以下の観点・割合で評価する。評価を行う成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下とする)							
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲		
	授業の出席				○	○ 50%		
	意欲・関心・態度				○	50%		
履修上の注意	出席が3分2以上なければ単位習得不可とする							

科目名	交流ゼミⅢ							
科目名(英)								
単位数	1単位		時間数	16時間	担当者	中畔政憲・上村仁美・下川武志		
実施年度	2020年度		実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	こども未来学科 3年							
授業概要	こども未来学科の全学年の学生を混合し、グループを構成。そのグループ内で学年を超えた交流を図る。最終的には、当科で実施する「交流会」に向けての準備を行っていく							
授業形式	講義:	演習: <input checked="" type="radio"/>	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
			<input checked="" type="radio"/>			積極的な姿勢を持って、他学年の学生やグループ内の学生とコミュニケーションを図る事ができる		
			<input checked="" type="radio"/>			物事の段取りを修正しながら臨機応変な対応を行いつつも計画的に行事を実行する事ができる		
			<input checked="" type="radio"/>			物怖じする事なく、積極的にレクリエーションに参加する事ができる		
			<input checked="" type="radio"/>			グループの中心となり、レクリエーションを企画・運営する事ができる		
			<input checked="" type="radio"/>			人間同士の関わりの中で、人間関係の調整を図ることができる		
テキスト・教材 参考図書	なし							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	3学年全体でのレクリエーション						
	2	3学年全体でのレクリエーション						
	3	グループ内でのレクリエーション						
	4	こども未来学科「交流会」に向けての準備						
	5	交流会への実践						
	6	交流会への実践						
	7	交流会への実践						
	8	交流会への実践						
	9							
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
	15							
評価方法	ゼミに臨む姿勢・態度が第一優先である。評価は出席状況にて「R」(履修)評価とする。							
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲		
	姿勢・態度				<input checked="" type="radio"/>	100%		
履修上の注意	2／3以下の出席状況にて、単位習得不可とする。							